

# 令和7年度宇都宮市冒険活動運営協議会会議議事録

○日時 令和8年2月3日(火) 9:30~11:00

○会場 宇都宮市冒険活動センター 会議室

○出席者氏名

- |                                  |                        |
|----------------------------------|------------------------|
| ・石塚 諭委員 (宇都宮大学)【会長】              | ・早川 慎一委員 (市レクリエーション協会) |
| ・加藤 一美委員 (篠井地区ゆたかなまちづくり協議会)      | ・月橋 春美委員 (県キャンプ協会)     |
| ・亀山 雄搾委員 (県林業センター場長補佐)           | ・山田 明子委員 (市小学校長会)      |
| ・中村 大介委員 (市PTA連合会)               | ・藤井 崇委員 (市中学校長会)【副会長】  |
| ・大関 啓二委員 (市子ども会連合会)              | ・森嶋 礼奈委員 (公募)          |
| ・櫻井 政義委員 (市ボーイスカウト・ガールスカウト連絡協議会) | ・塚原 綾子委員 (公募)          |
- (事務局)

高橋 敏所長, 駒野 拓也副所長, 池田 和博指導主事, 原 円香指導主事

○欠席者氏名 坂内 剛至委員(有限会社ネイチャープラネット)

○公開 (傍聴者の数 0人)

## 1 報告事項 令和7年度事業報告について

事務局 : (資料に沿って説明)

会長 : ご意見, ご質問はあるか。

### (1) 学校受入事業について

早川委員 : ニュースポーツの新種目であるバランスタワーは, アリーナで実施できるのか。

事務局 : 持ち運びができるため, アリーナのほか工作室等でも実施可能である。

早川委員 : 他にここ数年で新しく取り入れた種目はあるか。

事務局 : ストラックアウトやモルック等を取り入れた。

早川委員 : 埼玉県埼玉葛市で考案されたニュースポーツである「さいかつぼーる」を取り入れてみてはどうか。

会長 : 新しい種目の導入も検討していただきたい。

森嶋委員 : ニュースポーツの用具を外部団体へ貸し出しているのか。

事務局 : 学校受入での提供が優先となるが, 希望があれば所内協議にて検討する。

月橋委員 : バランスタワーを新しく取り入れた理由はあるか。

事務局 : 他施設で実施している情報を得て, センターにて材料が確保でき, 職員が製作可能なものであったため導入した。

会長 : モルックの用具も職員が製作しているのか。

事務局 : そうである。使用時にアリーナの床が傷つかないように, ゴムのカバーを付ける等の工夫をしている。

早川委員 : ネイチャーゲームは何種目ほど学校に提供しているのか。

事務局 : 学校ごとに職員が構成を検討し, 4~5種目ほど提供している。

早川委員 : 豊かな自然環境を生かして, より多くの種目を提供していただきたい。

会長 : 教員に向けた研修会で, ネイチャーゲームの体験も行っているのか。

事務局 : 学校が選択することが多い種目を中心に体験していただいている。

会長 : 研修への参加は任意か。

事務局 : 冒険活動実技研修会への参加は任意である。引率経験が少ない教員に向けて積極的に参加を呼び掛けている。冒険活動指導者研修会においては, 各校の引率教員が必ず参加し, 利用計画の調整等を行っている。

### (2) 一般受入事業について

加藤委員 : 利用者内訳のうち, その他とはどのような団体か。

事務局 : 友人同士や複数の家族同士, スポーツ少年団の父兄による利用が多い。

会長 : 12月現在の利用者人数は、例年に比べてどうか。  
事務局 : 昨年に比べると少ないが、1~3月で30団体ほどの利用を想定している。年間利用者数は例年と同程度になる見込みである。  
会長 : 利用マナー欠如団体への対応はどのようなものか。  
事務局 : ほとんどの利用者はマナーを守って利用しているが、利用マナーが欠如している団体が一部見受けられたため対応が必要となった。  
会長 : 今後の新たな課題となると想定される。

(3) 主催事業について

会長 : 家族ふれあいキャンプは今年度から実施しているのか。  
事務局 : 令和3年度まで実施していたが、コロナ禍で実施を見送っていた。今年度より実施を再開した事業である。  
櫻井委員 : 第2, 3回 Bouken Day! は、これから実施予定なのか。  
事務局 : 第2回は2月22日、第3回は3月22日に実施予定である。  
櫻井委員 : 広報うつのみやで周知しているのか。  
事務局 : 広報うつのみやのほか、ホームページやSNSでも周知している。  
会長 : 昨年度から実施している事業で好評だったと聞いている。今後も継続していただきたい。

(4) 自然体験に関わる人材育成事業について

(特になし)

(5) 広報・理解促進事業について

中村委員 : インスタグラム、フェイスブック、ホームページは職員が発信しているのか。SNSの発信において、注意していることはあるか。  
事務局 : 職員が発信している。SNSの発信においては、利用者のプライバシー保護に留意している。また、園内の自然や動植物に関する内容を発信する際は、季節に応じたタイムリーな記事をあげている。自然環境保護の面では、採集をしないように注意喚起をしている。  
会長 : SNSのフォロワー数は年々増加している。これからも継続していただきたい。

(6) 施設改修関係について

山田委員 : 施設の修理修繕作業における安全確保や予算確保が重要かと思われる。職員による修繕と業者による修繕の判断基準はあるのか。  
事務局 : 管理業務担当の職員と現場を確認し修繕可能なものは職員で対応している。管理業務による対応が難しければ、予算の問題があるが基本的には業者へ依頼をしている。

2 協議事項 令和8年度事業計画(案)

事務局 : (資料に沿って説明)  
会長 : ご意見、ご質問はあるか。  
事務局 : 現在、篠井地区との連携は手ぶちうどんづくりがメインとなっているが、手ぶちうどんづくり以外で、学校利用や主催事業等で篠井地区の方々の協力を得て、篠井を感じられる連携のアイデアがあれば、今後の事業運営の参考にするために伺いたい。もう一点は、リピーター増加や新規利用者獲得について、情報発信は行っているがそれ以外に具体的なアイデアがあれば伺いたい。  
加藤委員 : 篠井地区には名産の手ぶちうどんのほか、郷土料理や篠井金山がある。篠井小学校では、田植えや稲刈りの体験学習も行っている。地元としては、現在このような関わりを行っているところである。  
事務局 : 篠井金山跡については、登山の活動時に子供たちに伝えている。

- 加藤委員 : 地元の強みを生かした取り組みをしていただきたい。
- 森嶋委員 : 一般利用者はどのように子どものもりレストランを利用できるのか。
- 事務局 : 利用日の2週間前までに予約をすれば利用可能である。予約なしの利用は対応していない。
- 森嶋委員 : リピーターの増加の一助として、来訪者が、外でコーヒーを飲むなど気軽に利用できる対応をしていればよいと思ったが難しいことがわかった。
- 加藤委員 : 過去には冒険活動センターの施設を利用して、篠井地区の敬老会を実施していたがコロナ禍で中止となり、現在まで中止が続いている。篠井地区は商業施設が少ないため、地元としては、子どものもりレストランの建物付近まで車の乗り入れを許可してもらい駐車場を設けて、営業していただくと地域の活性化につながるのではないかと考える。
- 事務局 : 一般利用者のレストラン利用については、平日は学校利用対応で余裕がない。学校利用のない土曜日の午後や日曜日の利用がある程度見込めることができれば、レストラン業者に提案はできる。現状、利用者数が見込めないため、運営上難しくなっている。
- 森嶋委員 : 壬生町はボランティアを活用している。地域ボランティアを活用してはどうか。壬生町のボランティアは、利用者がいない場合はボランティア同士の交流の機会としている。
- 会長 : 長期的な話になるが、地域と連携しながら進めていけるとよい。
- 山田委員 : 篠井地区の特産品であるリンゴを使用したデザートを炊飯場で作り、有名なバリスタを招聘しコーヒーをいれるイベントを年に数回開催できると若い方が集まりやすいのではないか。また、冒険活動センターを舞台として、ミヤコンのような出会いの場を提供できるとよいのではないか。
- 事務局 : それについては、センターの主催事業ではないため、関係機関と協議し、センターの施設を使用する提案はしたいと思う。
- 加藤委員 : 過去にまちづくり協議会で、センターを会場として出会いの場を提供するイベントを開催したことがある。現在は実施していない。篠井地区で駐車場があって、トイレがあって、人が集まることができる場所は冒険活動センターと市民センターの2カ所くらいしかない。今後も冒険活動センターを中心に色々な企画をし、より多くの人が集まり楽しめるような場所にしていければよいと思っている。
- 藤井委員 : 栃木県内に色々なプロスポーツチームがあるため、プロスポーツチームと市民が集う企画を行うのはどうか。例えば、宇都宮ブリッツェンとマウンテンバイクを関連させたり宇都宮ブレックス等のプロスポーツチームと市民の交流を行ったりすることはどうか。また、第一駐車場にキッチンカーを出店させ、キッチンカー利用後、気軽に園内を散策できるようにするのはどうか。
- 事務局 : 3月に宇都宮ブリッツェンが、第二駐車場を発着点にしたイベントを開催予定である。ろまんちっく村で開催しているシクロクロスの実技等が園内でできるかもしれない。
- 会長 : 地域の貴重な資源なので、交流しながら何かできるとよい。
- (1) 学校受入事業について
- 亀山委員 : 冒険活動センターは市の施設なので、宇都宮市の小中学校だけの施設になるのか。
- 事務局 : 市立小中学校の受入が優先だが、日程に空きがあれば市外の学校受入も可能である。過去には県外の学校で利用していた学校もある。
- 会長 : 調査研究の結果はどのように扱うのか。
- 事務局 : 来年度は児童生徒及び保護者、教員のアンケートの実態をふまえ、冒険活

- 動教室を再評価し、活動内容や支援内容を再考をしたい。
- 会長 : エビデンスを示していくことは大事なことで、結果を参考にして活動等を考えていただきたい。
- 加藤委員 : 環境保全活動の面で、生き物調査のようなプログラムはあるのか。
- 事務局 : リバートレッキングや水辺の自然観察において、生き物調査のような活動を取り入れることはある。
- 加藤委員 : 活動支援において、可能であれば様々な知識を持った方々と連携できるとよい。
- 大関委員 : 冒険活動センター創設前は、市立学校の宿泊学習はとちぎ海浜自然の家で実施していた。冒険活動センターでの実施に切り替わったのはいつからか。
- 事務局 : 創設当初は小学校4年生が1泊2日で利用していたが、平成23年に小学校5年生による2泊3日の利用に変更された。小学校4年生は冒険活動教室、小学校5年生は海浜自然の家と両方で宿泊学習を実施していた時期がある。
- 会長 : 安全面を考えて大学生でも宿泊する機会が減少している。宿泊学習は貴重な学びの時間となるため、今後も充実した支援をしていただきたい。

#### (2) 一般受入事業について

- 会長 : 大規模改修工事に伴う子どものもりレストランの利用制限はあるか。
- 事務局 : 7~9月はレストランの他にも工作室、アリーナが利用不可となるため、予約受付時にその旨を利用者に伝えている。それをふまえて利用者が判断をすることになる。

#### (3) 主催事業について

- 会長 : 各主催事業の募集人数は増やせないか。
- 事務局 : 職員の勤務体系や安全管理等を考えると難しいが検討はしていきたい。
- 塚原委員 : 家族ふれあいキャンプの応募数が多いため、募集人数を増やせないかと思ったが、職員の勤務体系や安全管理等の配慮による人数設定と聞いて納得した。篠井地区の特産品や郷土料理を生かした親子での取組が実現できるとよい。また、ネイチャークラフトの活動を小中学校の図画工作や美術の授業に取り入れたり、センターと学校をつないでオンライン授業を実施したりするとセンターの魅力が伝わるのではないか。

#### (4) 自然体験活動に関わる人材育成事業について

(特になし)

#### (5) 広報・理解促進事業について

- 森嶋委員 : 冒険活動センターから他施設への講師派遣はしているのか。
- 事務局 : 依頼があれば検討していくが、職員の勤務に影響することなので、学校受入との兼ね合いで余裕があれば対応を検討できる。そのような要望があるのか。
- 森嶋委員 : 過去に南図書館で展示を1年に1回1週間行っていた。親子で図書館に来て、パンフレットをもらうことでセンターに出掛ける足がかりにもなるため、展示は続けていただきたい。

### 3 その他

- 事務局 : (資料に沿って説明)
- 会長 : ご意見、ご質問はあるか。
- 森嶋委員 : 野生動物関係について、尾瀬では熊の出没が予想される場所に熊鐘を設置している。通行時に鐘を鳴らすことで、熊に人の存在を知らせている。熊の問題があるならば、冒険活動センターにも設置するとよいのではないか。
- 亀山委員 : 日光市では、熊鈴を自治会や育成会で配布しているところもある。

- 中村委員 : 冒険活動センター周辺で熊は出没するのか。
- 事務局 : 熊の目撃情報はないが、猪の目撃情報はある。
- 加藤委員 : 過去に日光有料道路沿いで熊の目撃情報があった。80 キロから 100 キロ近くある猪は真っ黒なため、熊に見間違える誤報もある。
- 会長 : 児童生徒の不安を煽ることはよくないので、どの程度注意喚起するのは難しいところである。
- 加藤委員 : 鈴で野生動物に人の存在を知らせることは大切である。
- 亀山委員 : 熊スプレーを正しく使用するには、慣れが必要である。メディアで取り上げられていたが、山に入る時、大声を出したりラジオを大音量で流したりすることで人の存在を野生動物に知らせることが重要である。熊は基本臆病な性格のため逃げていくらしい。
- 会長 : 熊鈴はいくつ用意があるのか。
- 事務局 : 学校の児童生徒全員に貸し出す分はない。学校利用時には、夕方から引率教員に貸し出すようにしている。
- 会長 : 熊鈴の数を増やす対応をとっていただけるとよいのではないかな。
- 加藤委員 : 園内の樹木管理について、ナラの木などの広葉樹を植樹する考えはよいのではないかな。土砂崩れの防止の面でも効果がある。
- 大関委員 : そういうものをイベントにしてもよいのではないかな。足尾では植樹のイベントを開催している。植樹体験を取り入れたイベントを開催することでセンターに足を運んでもらうのはどうか。
- 会長 : 前向きに検討していただきたい。